

○市町村がん検診受診率の経年変化

検診名	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
胃がん検診	(7.8)	(6.8)	(6.9)	8.1(7.0)	6.4(6.0)	7.5(6.0)	7.4(5.9)	7.2(5.8)	6.2(5.2)	7.4(5.9)	7.2(7.8)	7.6(6.2)
子宮がん検診(頸部)	(18.9)	(19.7)	(21.7)	31.8(24.3)	25.6(20.4)	32.0(23.2)	31.5(22.8)	32.9(23.8)	27.4(20.8)	15.2(12.7)	13.8(14.7)	13.5(12.3)
肺がん検診	(12.2)	(8.4)	(7.0)	8.7(7.8)	6.8(6.6)	9.5(8.1)	9.4(8.1)	9.5(8.3)	8.5(7.8)	4.7(5.1)	4.6(4.6)	4.5(5.0)
乳がん検診	(12.2)	(13.8)	(15.9)	26.3(18.2)	22.4(16.1)	26.9(17.3)	24.3(17.3)	28.7(18.7)	25.5(17.5)	14.7(11.6)	15.0(13.6)	15.5(13.7)
大腸がん検診	(9.1)	(8.1)	(8.1)	9.1(8.6)	8.8(8.4)	12.8(10.6)	12.7(10.7)	13.0(11.1)	11.9(10.7)	5.7(6.3)	5.5(5.5)	4.7(6.1)

※ 地域保健・健康増進事業報告(地域保健・老人保健事業報告)(厚生労働省)より

※ ()内は対象者を総数にて算出したもの

※ 平成28年度から、これまで統一されていなかった対象者数の算定方法を「市町村の住民全体」に統一したため、平成27年度以前と平成28年度以降の受診率を比較することはできません。

○市町村がん検診受診率の全国比較(平成30年度)

	胃がん	子宮(頸部)がん	肺がん	乳がん	大腸がん
全国	8.2	16	7.1	17.2	7.7
福岡県	7.6	13.5	4.5	15.5	4.7

地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

※ 乳がん検診及び子宮がん検診、胃がん検診(28年度以降)の受診率

「前年度の受診者数+当該年度の受診者数-2年連続受診者数」/「当該年度の対象者数」×100

※「がん対策推進基本計画」(平成24年6月8日閣議決定)に基づき、がん検診の受診率の算定対象年齢を肺・乳・大腸は40歳～69歳、胃は50歳～69歳、子宮(頸)は20歳～69歳とする。